

競 技 注 意 事 項

本大会は、2026年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

1 練習について

練習は、補助競技場および雨天練習場（使用方法について下記参照）を原則とする。**補助競技場では道具（マーカー、ミニハードル、ラダー等）を使用した練習はできません。メディシングボールについては、競技場周辺で使用することができるが、安全に注意すること。**投てき競技（円盤投、ハンマー投、やり投）の練習については、競技開始前にメイン競技場を使用することができる。練習する際には、現地の審判員の指示に従って行うこと。

なお、本大会は多目的広場が使用できないため、競技前の練習（ウォーミングアップ）は投てき種目を含めて、安全に留意して実施すること。

各練習場所では以下の注意事項を遵守すること。

<メイン競技場の使用について>

- ①開場時刻から競技開始30分前まで使用することができる。
※4月18日(土) 7:00開場
4月19日(日) 8:30開場（植樹祭りハ8:00まであり）
- ②レーンの使用については以下の通りである。
 - ・1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
 - ・3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
 - ・ハードル練習については、300mHの練習は、スタートからバックスタンド前及び第3コーナーまでとし、女子は8レーン、男子は9レーンを利用してハードルは3台までとする。
 - ・スターティングブロックを利用した練習は、100mスタート付近の5レーン、第1曲走路の5レーンからのみとする。
- ③レーンをまたいで移動する際は、安全に注意すること。
- ④競技開始後の使用については競技優先とする。バックストレートが空いている時は直走路を使用しての練習を認めるが、競技中の棒高跳に配慮して8・9レーンは使用しない。競技場内への出入りは第2ゲートから行う。

<雨天練習場の使用について>

- ①雨天練習場でのピストルの使用は禁止する。
- ②雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止する。
- ③シート等を敷いて、独占的な使用をすることを絶対にしない。
- ④ウォーキング・ジョギングなど著しくペースが遅いウォーミングアップ、または動きづくり程度の練習は行ってもよい。
- ⑤ウォーキング・ジョギング等の練習は、左回りとし、逆走はしないこと。
- ⑥ハードルを使った練習はできない。

<補助競技場の使用について>

- ①レーンの使用については以下の通りである。
 - ・1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
 - ・3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
 - ・ブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路7～11レーンのみとする。
 - ・多目的広場側の直走路5・6・7レーンは女子100mH、9・10・11レーンは男子110mHを優先レーンとする。
 - ・第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路の5レーンは女子400mH、6レーンは男子400mHとする。

<棒高跳について>

競技開始60分前から現地にて跳躍練習を行うことができる。ただし、他の競技に影響がでないように、審判員の指示に従うこと。

2 スパイクシューズ等の制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。

3 アスリートビブスについて

- ①アスリートビブスは指定された数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技（走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳）に出場する選手はどちらか一方でもよい。
- ②トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの左右横やや後方につけること。
- ③3000m以上の種目は別ナンバーカードを使用する。別ナンバーカードは招集所にて配布する。

4 選手招集について

- ①選手招集場所は、第2ゲート付近とする。
- ②招集時刻は競技時間を確認すること。
※1：棒高跳、投てき（円盤投・ハンマー投・やり投）は現地で招集を行う。
※2：参加人数の多い種目については、段階的に招集を行う。競技時間に記載している招集開始時刻、招集完了時刻を確認すること。
- ③招集完了時刻に遅れた選手は、棄権とみなす。
- ④2種目を同時に兼ねて出場する選手は、あらかじめ競技者係に申し出ること。

5 競技について

- ①競技順は、プログラム記載の番号順とする。
- ②その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- ③トラック競技の各レースでの不正スタートは、1回目からすべて失格とする。
- ④TR16.5（不適切行為）が認められた場合は、審判長の判断により「イエローカード」が出されることがある。同じ競技会の中で2度の規則違反があった場合は失格となる。
- ⑤スターターの合図は英語とする。（「On your marks」、「Set」）
- ⑥短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。
- ⑦レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- ⑧男子5000mW・女子5000mWについては、下記の時間を越えて最終周回に入らない。
男子5000mW：30分、女子5000mW：35分
- ⑨競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- ⑩跳躍・投てき種目の試技は3回とする。
- ⑪競技者は、携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技エリア内に持ち込むことはできない。コーチエリア付近（エリア指定あり）で選手に手渡しして映像を見せることができる。選手が指定エリア外に機器等を持ち込むことはできない。なお、メインスタンドから撮影機器を手渡しすることは禁止とする。コーチエリアでのコミュニケーションが終了したら、速やかにコーチエリアから出ること。

6 競技用具について

- ①競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし、やりは検査において合格したものに限り使用が認められる。個人所有ポールの検査は最終点呼時に跳躍審判が行い、やりの検査は競技開始60分前に第1ゲート付近にて実施する。
- ②練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んで서는ならない。

7 競技場への入退場について

種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。

第1ゲート：第1コーナー付近からスタートするトラック競技および**1500m**

第2ゲート：第2コーナー付近からスタートするトラック競技および棒高跳・投てき競技

第3ゲート：走高跳

第4ゲート：100m付近からスタートするトラック競技および走幅跳、三段跳、200m、5000m

8 跳躍競技について

走高跳・棒高跳のバーの上げ方については、下記の通りとする。

		練習			
走高跳	男子	145	150-180まで5cm刻み	180cm以降3cm刻み	195cm以降2cm刻み
	女子	115	120-145まで5cm刻み	145cm以降3cm刻み	166cm以降2cm刻み
棒高跳	男子	200	221-341まで20cm刻み	341cm以降10cm刻み	
	女子	160	181-201まで20cm刻み	201cm以降10cm刻み	

三段跳の踏切位置は、男子 11m00 女子9m00 とする。

9 その他

- ①やむを得ず棄権するときは、競技者係まで必ず届け出ること。
- ②応急処置を要する健康上の問題が発生したときは、スタンド下の救護室に連絡すること。
- ③更衣室については、大会受付後方スタンド内通路を入れて右側にあるので利用してもよい。
- ④記録の掲示については、競技終了後、大型映像で表示する。競技場メインスタンド下、正面玄関付近での記録掲示は行わない。なお、記録速報を愛媛陸協HPから確認できる。